

## 2017年度点検・評価シート

※下記の指摘事項、課題を踏まえて、Ⅱ点検・評価 Ⅲ【達成目標】欄を記述してください。

(進捗状況を【現状説明】に記述し、必要に応じて新たに【目標】を設定する。)

2016年度大学評価（認証評価）結果指摘事項 なし
2016年度外部評価委員会指摘事項 なし
前年度からの課題（2016年度点検・評価シート IV次年度への課題 より転記） 4-2-1 全学共通科目のカリキュラム改正案を根本から考え直す。中期目標を変更する。 4-2-1 教職科目（削除）のカリキュラム改正については、新課程がスタートする2019年度の施行を目指す（教職課程センターとの相談の結果）。 4-2-2 「キャリアデザインB」の開講年次を3年次に変更した。2018年度の科目編成（担当者貼付け）は、この点を考慮して行うこと。また、各学部の「履修の手引き」にこの変更を反映させること。しかるべき時期にリマインドすること。

## Ⅰ 評価項目・担当部局

対象部局	東松山キャンパス運営委員会
評価基準4	教育内容・方法・成果
中項目 4-2	教育課程・教育内容 【自己評定 B】
点検・評価項目(1)	4-2-1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ
点検・評価項目(2)	4-2-2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
評価の視点	学士課程教育に相応しい教育内容の提供 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容 キャリア教育の実施状況
点検・評価項目(3)	4-2-3 国際化に対応した教育を行っているか。
	教育課程における国際化の推進
点検・評価項目(4)	4-2-4 教育課程の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

## Ⅱ 点検・評価 対象期間は2016年4月～2017年5月までとする。（教員数、学生数などのデータの基準日は2017年5月1日）

## 【点検・評価項目ごとの現状説明】

4-2-1	<p>＜全学共通科目＞</p> <p>全学共通科目は、主に全学部の1、2年生を対象とした、幅広い教養と豊かな人間性の涵養をめざす科目群であり、大きく「基本科目」「課題（テーマ）科目」「教職課程専門科目」の3つに分かれる。</p> <p>「基本科目」は、A系「人間と文化（人文系）」、B系「社会と生活（社会系）」、C系「自然と環境（自然系）」、D系「健康とスポーツ（保健体育）」の4群に分類されている。</p> <p>「課題（テーマ）科目」は、従来の学問体系を超えた学際性を重視し、過去・現在・未来の社会や生活と密接にかかわる課題（テーマ）を扱う科目群であり、社会へのかかわり、時代に対する問題意識を学生に喚起すること、さらに専門教育への動機づけを学生に与えることをめざしている。</p> <p>「教職課程専門科目」は教職資格用の科目群である。ただし、教職課程科目の学科専門科目化に伴い、2019年度からは発展的な内容を持つ全学共通科目としての位置づけを持たせ、名称を変更して実施する（B4-2-1、A4-2-3）。</p> <p>＜英語教育＞</p> <p>英語の4技能（話す・聴く・読む・書く）の育成を通して、グローバルな視野で異文化を理解し、批判的思考を通して自分の意見を論理的に述べる能力、多文化共生社会を推進する能力を有する人材の養成をめざす。</p> <p>主に東松山キャンパスの1、2年生を対象とした英語教育は学部ごとに行われている。このため、英語教育は各学部のカリキュラムの中で編成され、教育目標・科目名・科目間の順次性・教授法なども学部ごとに定められている（A4-2-16）。</p> <p>＜英語以外の外国語教育＞</p> <p>グローバル化が進む社会生活の中で、いっそう重要度を増す外国語の運用や異文化理解の能力をもった人材を養成するため</p>
-------	---

	<p>に、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、ロシア語、ポルトガル語、中国語、タイ語、コリア語、インドネシア語、ビンナン語、それに古典語のラテン語とギリシャ語、合計 13 言語が開講されている。</p> <p>これらの言語は基礎教育科目として学部・学科ごとに履修できる言語が指定されている。ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語では、「初級」「中級」「上級」など、習熟度に応じた順次的な科目編成が行われている(A4-2-16)。</p>
<p>4-2-1</p>	<p><b>以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。</b></p> <p>(1) 必要な授業科目の開設状況について【○】</p> <p>具体的事例：その適切性について検証を加えるとともに、教職課程科目の学科専門科目化に伴い、発展的な内容を持つ全学共通科目という区分を制度化する。</p> <p>(2) 順次性のある授業科目の体系的配置について【○】</p> <p>具体的事例：発展的な内容を持つ全学共通科目という位置づけを明確にした科目群を新設する。英語教育については、学部ごとのカリキュラム編成の中で体系的配置について考慮がされている。</p> <p>(3) 専門教育・教養教育の位置づけについて【○】</p> <p>具体的事例：全学共通科目としても教職課程科目として実施してきた専門性のある科目を専門科目への発展科目として位置づけを持たせ実施する。</p>
<p>4-2-2</p>	<p><b>&lt;全学共通科目&gt;</b></p> <p>全学共通科目中の基本科目は以下のとおり編成され、教養教育にふさわしい教育内容を提供している (B4-2-1、A4-2-3)。一部の科目は高校生にも開放して、高大連携を図っている。</p> <p>A系 人間と文化 (人文系)：哲学、文学、論理学、倫理学、宗教学、歴史学、考古学、文化史、芸術学、地理学、言語学          B系 社会と生活 (社会系)：法学、社会学、政治学、経済学、心理学、教育学、民俗学、文化人類学          C系 自然と環境 (自然系)：数学、地学、生物学、生態学、現代科学、情報科学、自然科学          D系 健康とスポーツ (保健体育)：総合体育、健康スポーツ科学、体育実技、野外実習</p> <p>課題 (テーマ) 科目の各群の内容は、以下のとおりである。</p> <p>第1群 地域・国家・民族の考察 (中国地域文化論、沖縄の歴史と文化、日蘭交渉史、日本の歴史地理)          第2群 女性・子ども・老人への視点 (日本子ども史、ジェンダー史)          第3群 人権・民主主義・平和を考える (平和学)          第4群 現代社会の諸問題 (現代日本経済、環境政策と環境行政、ニューベンチャー講座、秩序と公共性の思想、気候変動論から考える日本史)          第5群 異文化・世界にふれる (西洋文化史、文化と環境、中国少数民族、歴史都市、芸術と社会、文学と社会、現代文化における思春期の表象、解釈学、東方キリスト教の世界、海外インターンシップ準備講座)          第6群 自己・人間をみつめる (《愛》について、ことばと人間、文章の書き方、大学生のための文章表現入門、大学生のための文章表現実践、囲碁と将棋、現代の大学、論語、農林漁業と人間環境、日本の国のかたちと日本人)          第7群 キャリアデザイン (就職力養成講座、自分の将来と生き方を考える、コミュニケーション力を磨く)          第8群 全学共通特殊講義 (実験化学とレポートのまとめ方、自然観察フィールドワーク)</p> <p>教職課程専門科目には以下のものが配置されている。</p> <p>日本史概論 A、日本史概論 B、西洋史概論、東洋史概論、日本の人文地理、世界の人文地理、日本の自然地理、世界の自然地理、日本地誌概論、世界地誌概論、日本国憲法、法学概論、情報処理、哲学概論 A、哲学概論 B、倫理学概論 A、倫理学概論 B、心理学概論、社会病理</p> <p>全学的なキャリア教育を第7群「キャリアデザイン」で行っている。これは単なる就職講座ではなく、人生全体を考えるための「ライフデザイン」的な科目であり、初年次教育的要素を兼ね備えている。</p> <p>また、基本科目D系 健康とスポーツ (保健体育) は、学部学科を問わず、全ての学生に必要な健康の維持増進を目的とした教育内容を設定しており、これも全学共通の初年次教育としての役割を果たしている。</p> <p><b>&lt;英語教育&gt;</b></p> <p>英語教育は学部ごとのカリキュラム編成体制をとっているが、いずれの学部においても、たとえば「英語リーディング」「口語英語」「時事英語」など、目的別の科目を設置しており、さらに 3 年次に「上級コミュニケーション英語」などを設け、順次性を考慮したプログラムを提供している。</p> <p><b>&lt;英語以外の外国語&gt;</b></p> <p>ドイツ語、フランス語、中国語では、初年次に週 2 回授業を行う「○○語基礎」と、それを補う「○○語初級」が設けられ、</p>

	さらに 2 年次以降に「〇〇語中級」「〇〇語上級」と順次的に学べる科目が開設されている。また、スペイン語には「基礎」と「中級」が、ロシア語には「基礎」が、その他の言語には「初級」が設置されている。
4-2-2	<p>以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。</p> <p>(1) 学士課程教育に相応しい教育内容の提供について【×】                  具体的事例：</p> <p>(2) 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容について【×】                  具体的事例：</p> <p>(3) キャリア教育の実施状況について【×】                  具体的事例：</p>
4-2-3	全学共通科目の基本科目では、特に課題（テーマ）科目において今日の国際化にも対応した科目が編成されている。外国語科目では、英語以外に 13 の言語が提供され、英語圏以外の社会や文化への関心・興味を育てている。保健体育についても、実技科目、講義科目および野外実習科目において、国際的動向を踏まえた教育内容を提供している。
4-2-3	<p>以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。</p> <p>教育課程における国際化の推進【×】                  具体的事例：</p>
4-2-4	教育課程の適切性については、全学共通科目分科会、英語分科会、外国語分科会（未修外国語）、保健体育分科会の各分科会において検証し、教務部会を通じて東松山キャンパス運営委員会で定期的に検証する体制がとられている。
4-2-4	<p>以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。</p> <p>教育課程の検証に関する責任主体・組織、権限、手続きについて【×】                  具体的事例：</p>

【効果が上がっている事項】

4-2-1	
4-2-2	
4-2-3	
4-2-4	

【改善すべき事項】

4-2-1	教職課程科目の学科専門科目化に伴い、各学科の専門科目として実施される科目と全学共通の発展的内容を持つ科目との位置づけを明確にする必要がある。
4-2-2	
4-2-3	
4-2-4	

Ⅲ 【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標	目標達成の指標となるもの	評価					
		2014	2015	2016	2017	2018	
中期目標 (2014～2018)	4-2-1, 4-2-2 全学共通科目の見直しと再編成を行う。現行の「課題（テーマ）科目」を新「課題（テーマ）科目」と「実践力養成科目」とに分ける。「課題（テーマ）科目」を再編整理し、「実践力養成科目」（キャリア関連科目など）についても順次性のあるカリキュラムに再編する	→			C	B	
	4-2-1 全学共通科目の教職課程科目を学科の専門科目に移す。	→			C	S	

16年度 目標	4-2-1 全学共通科目の教職課程科目を学科の専門科目に移す。	教職課程センターでの議論と歩調を合わせながら、東松山キャンパス運営委員会および該当学科での議論が行われ、結論が出ている。			A		
17年度 目標	4-2-1 教職課程科目の学科専門科目化に伴い、各学科の専門科目として実施される科目と全学共通の発展的内容を持つ科目との位置づけを明確にする。	全学教育科目としての体系の適切性が確保されている。			A		

#### IV 評価専門委員会所見

<p>4-2-1【現状】、4-2-2【現状】</p> <p>東松山キャンパス運営委員会が統括している教育課程の全体像とその詳細が体系的かつ詳細に記述されています。</p> <p>「(2) 順次性のある授業科目の体系的配置について」の項目に【O】がついており、その具体的事例として「発展的な内容を持つ全学共通科目という位置づけを明確にした科目群を新設する」と書かれていますが、やや具体性に欠ける記述となっています。実際にはどのようなことを行った、あるいは行う予定であるのかを明示的に記述してください。</p> <p>4-2-3【現状】国際化につながる課題（テーマ）科目があるとのことですが、その具体例を示していただけると第三者にもわかりやすいと思います。</p>
--

#### V 所見への対応

<p>4-2-1 発展的な内容を持つ全学共通科目の体系のあり方からの議論を始めており、現時点ではその内容を具体的に示せる状況にはない。</p> <p>4-2-3 具体的には、海外インターンシップ準備講座がある。</p>
---

#### VI 次年度への課題

<p>2019年度実施に向けてキャリア科目、基礎英語科目、留学生科目等の全学的に共通して実施すべき科目を体系化し整備を図る検討が進められており、その結論を得て実現を図る。なお、キャリアデザインBの開講年次の変更は2019年度からとなった。</p>
---

#### 本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

<p>A4-2-1 大東文化大学学則 &lt;既出&gt;A1-1</p> <p>A4-2-3 大学案内「CROSSING2016」 &lt;既出&gt;A1-6</p> <p>A4-2-16 大東文化大学・大学院シラバス (CD-R)</p> <p>大東文化大学ホームページ (Web シラバス)</p> <p><a href="http://www.daito.ac.jp/campuslife/syllabus/index.html">http://www.daito.ac.jp/campuslife/syllabus/index.html</a></p> <p>B4-2-1 大学ホームページ (全学教育全学共通科目)</p> <p><a href="http://www.daito.ac.jp/education/whole_university/common.html">http://www.daito.ac.jp/education/whole_university/common.html</a></p> <p>B4-2-10 大東文化大学ホームページ (自己点検・評価活動)</p> <p><a href="http://www.daito.ac.jp/information/examine/inspection/index.html">http://www.daito.ac.jp/information/examine/inspection/index.html</a> &lt;既出&gt;B1-16</p> <p>B4-2-23 大学データ集 &lt;既出&gt;B1-22</p>
<p>〔追加資料〕</p>